

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔土産〕 （店員）	・これから本格的な観光シーズンを迎えるに当たり、修学旅行生は愛知万博にかなり取られていると感じるが、国内旅行に関しては、一部北海道に流れてきている。特に高齢者層の小団体が増えてきていると感じる。法人需要の部分では、依然として落ち込みがあるが、店での購買状況を見ると個人旅行や個人消費ではメンタル的にも回復していると感じることができる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・秋物商戦はどうなるのかはいまいち見えてないが、夏商戦が早めに終わることで、秋の立ち上がりは早くなり、高額のもの動き出す。
		商店街（代表者）	・人が動くようになり、消費の購買力もついてきた。所得も3か月前より、かなり良くなっていると感じる。その影響で街中や観光地へ出かける機会も多くなっている。
		百貨店（役員）	・気温の上昇もあるが、衣料品のまとめ買いや高単価の商品の動きが目立つようになっている。衣料品の売上は、若干ではあるが、前年を上回る状況になってきた。
		スーパー（店長）	・5月よりは若干販売量が落ちているが、前年比でみると、販売量は3%ほど伸びている。
		衣料品専門店（店長）	・北海道の夏物の販売期間は全国と比べて短いにも関わらず、ここ2～3か月、販売量が継続して増加傾向にあることから、上向いている傾向が感じられる。
		衣料品専門店（店員）	・現在、現金での買上率が上がってきているので、クレジットカードで利用できる金額の枠にも余裕が生まれ、今後はカードを利用しての買物も出てくる。
		その他専門店〔造花〕 （店長）	・2～3か月後はクリスマス商品が動き出す時期であるが、客の様子から前年よりも上向くことが期待される。
		一般レストラン（スタッフ）	・客単価が1年ぶりに前年の水準まで戻ってきている。領収書の発行枚数も増えてきて、法人の利用が伸びてきている。
		旅行代理店（従業員）	・沖縄直行便が9月に再就航すること、また機材も大型のものに変更されることによって、熟年や20～30代の需要喚起が期待できる。
美容室（経営者）	・客の会話の中でレジャーや買物に関する内容が増えてきた。		
変わらない	商店街（代表者）	・6月に入って少しずつ売上も上昇気運になってきているが、抜本的に景気が良くなってきているとはまだ考えられない。先行き不安に対する問題が多すぎるので、なかなか景気が上向くところまではいっていない。	
	一般小売店〔酒〕（経営者）	・今月の売上をみると幾分良くなってきているのかと見受けられるが、天候等不確定要素が多く、3か月先まではこのまま良い状態が続くとは楽観できない。	
	百貨店（売場主任）	・郊外型量販店の増加や市内中心部でも競争が激しくなっており、同じような商品なら単価の安いものをという客が郊外店に出向いているケースが非常に多くみられる。商売が分散されていて、今後もその状態が続く。	
	スーパー（店長）	・これからピークを迎えるお中元の出足をもみても、前年を大きく割り込んでおり、先行きの景気の明るさはなかなか見えない。	
	コンビニ（エリア担当）	・デフレの状況がしばらく続く。	
	コンビニ（エリア担当）	・市町村の予算は昨年比較で更に減額されていることと、増税の話が出ていることから、将来的に景気が良くなる要素は見当たらず、消費が増加するとは考えられない。	
	衣料品専門店（店長）	・年配の客が多いので、年金を心配しており、この先も消費の回復は見込めない。	
	家電量販店（地区統括部長）	・前年は猛暑による季節商品と、オリンピック需要によるAV商品が大きく寄与した。現状はデジタル家電が依然として好調を維持しているため、全体的には大きな変動はないと思われる。	
	乗用車販売店（従業員）	・これから新型車が出る様子もなく、このままの状態が続く。	
	乗用車販売店（従業員）	・一般客の中で景気が良くなったという話はないため、販売台数は増えない。	

	高級レストラン（スタッフ）	・予約状況は良いが、客単価が下がっており、売上増は望めない。天候状況の良さや景気の悪くない道外企業の動きはみられるが、ランチの客層から判断すると、道内企業の厳しさもうかがえ、景気が良くなってくるとは予想しにくい。	
	スナック（経営者）	・少しずつ観光客が入り、客も増えているように感じられるが、地元の景気が悪いので地元客のリピーターが減っている。なかなか景気が回復する感じにはならない。	
	スナック（経営者）	・これから夏祭りで人が出てくる機会が多いが、ポケットマネーで飲みに来る人は限られる。	
	観光型ホテル（経営者）	・一気に夏型気候に突入し、旅行代理店からの引き合いは例年並みであるが、実際の送客となると予定数が確保できていない。先の予測ができない状況であり、来客数の減少は必至である。	
	観光型ホテル（スタッフ）	・現時点における予約状況を前年同日と比較すると、8月は前年並み、9月は若干強含みとなっている。	
	旅行代理店（従業員）	・現在の状況から、景気が上向きになる要素はあまりなく悪化を防ぐのが精一杯である。	
	タクシー運転手	・規制緩和により札幌市内のタクシーの台数は増え続けており、利用客が減少傾向にあるので、これからますます厳しくなっていく。	
	タクシー運転手	・夏場の天候次第であるが景気が大きく変わる材料は見当たらない。	
	観光名所（職員）	・タクシーの空車状況が依然として目立つ。おそらくこのまま変化がないと思われる。	
	その他レジャー施設（職員）	・変わらないというよりも不明である。地元球団やクラブの成績次第で、成績が悪ければ極端に下がり、成績が良ければ極端に盛り上がる。	
	住宅販売会社（従業員）	・デフレ現象が顕著に現れているので、メーカーとして単価を下げる必要があるが、この部分の難しさから表面的には変わらない状況が続く。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・総体的な景気からみると、消費を抑制するような要因が薄く、消費者心理もやや安定している。しかし当エリアの大型店の存続が不透明であることから集客力が落ちており、中心市街地離れに歯止めがきかない状況である。
		家電量販店（経営者）	・大手百貨店の撤退など、悪いニュースばかりで、ますます停滞ムードが助長されている。
	悪くなる	-	-
	良くなる	-	-
企業 動向 関連	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・景気の先行指標である百貨店の家具売上が、前年より良い月が増えつつあり、住関連産業には明るい兆しが見えてきた。
		建設業（経営者）	・受注面でピークを越し、人、物、金の動きが活発になる。ただし採算面では依然として厳しい状態が続く。
変わらない		輸送業（支店長）	・建築資材の値上がり等にもよるが、道内は秋口くらいまで頭打ちになる。道外向けについては、当分の間、物件も順次受注できているため継続が見込まれる。ただし建築資材等については、道内外の物件ともに現在以上に良くなるということとは考えられない。
		輸送業（営業担当）	・原油高騰の現状が続けば、配船の遅れや、引き受け料金の見直し等が生じて厳しい状態となる。
		通信業（営業担当）	・ここ2か月程度景気の上昇感が感じられるが、ここから更に上昇するには要因、起爆剤不足の感じを受ける。このため良い意味での横ばいである。
		金融業（企画担当）	・大きなウエイトを占める建設業は公共投資の削減により厳しさが続く。また比較的底堅く推移してきた札幌市内のマンション建設も頭打ちとなってきた。最盛期を迎える観光業は愛知万博との競合もあり、大きな期待はできない。
		司法書士	・現在の状況から判断すると希望は持てない。特定企業の回復ではなく、土木建築業など広い範囲での影響力を持っている企業の回復がポイントとなる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・取引先が設備投資に慎重である。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・今後も受注活動における厳しさに変わりはない。
	やや悪くなる	輸送業（経営者）	・燃料の高騰から、輸送関係や運輸関係は今後も相当収益への影響が見込まれる。

		その他非製造業 [機械卸売] (従業員)	・主要顧客の下期の受注量が減少しており、資材の購入及び機械設備の更新を手控えている。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社 (編集者) 求人情報誌製作会社 (編集者) 学校 [大学] (就職担当)	・非常用、つまり正社員の求人が微増している。また地域基幹産業である農業、畜産、酪農の動きが安定している。 ・アルバイト、パート、派遣等の間接雇用に関しては、今年に入って順調に求人数が伸びており、これと比べてブレーキになる要因が見当たらない。 ・予定の新採用者数を確保できなければ、秋採用及び通年採用が続く。
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	・有効求人倍率は改善傾向という話を聞くが、当社の求人も増加傾向ではあるものの、求める内容は高いレベルの即戦力の人材であり、少数の高レベル求人と繁忙に伴う単純作業系の求人二分化されているように見える。更にそれ以外は派遣、パートの活用ということになり、業績の悪化を経費面で調整しているように見え、景気回復にはいまだ至っていない。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・求人数が落ち着いてきており、今後も大きな変化はみられない。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	・大きな動きは予想されない。地域活性化の見通しが不透明である。
		職業安定所 (職員)	・建設業において、工事受注の遅れから従業員の雇用も遅れている。大手百貨店の閉店が発表され、雇用面での影響も懸念される。
		職業安定所 (職員)	・増えている求人は、派遣や業務請負、パート等の非正規型求人であり、求職者の約9割を占める管内常用就職を希望する者の雇用環境は依然として厳しい状況が続いている。
	やや悪くなる	-	-
	悪くなる	-	-